

40

医師・看護師等によるがん患者指導件数

自院

- ① がん患者指導管理料イ（医師と看護師が協働して診療方針等を文書等で提供）
- ② がん患者指導管理料ロ（医師と看護師が心理的不安軽減のための面談）
- ③ 専門・認定看護師によるがん患者指導件数（がん患者指導管理料範囲外）

指標の意義

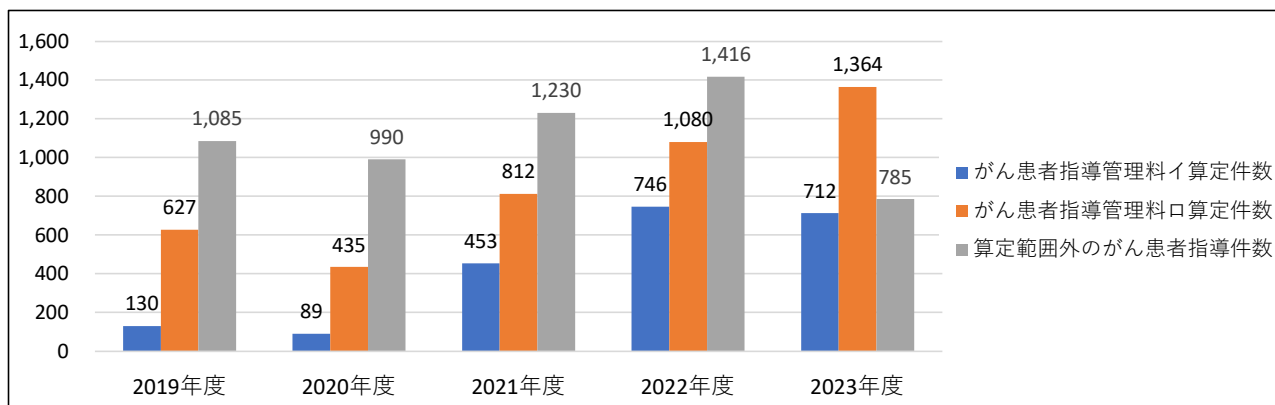
「がん患者指導管理料イ」は、患者と家族が納得して治療にのぞめるために、医師と看護師が協働で診断や治療方針について説明し支援するもので、病状理解と治療の意思決定が十分なされているかを測る指標です。「がん患者指導管理料ロ」は、患者の心理的不安を軽減するために、医師と看護師、公認心理士が支援するもので、不安が早期に緩和され安心して療養できているかを測る指標です。「専門・認定看護師によるがん患者指導件数」は、がん患者指導管理料の算定要件に満たない状況でも、診療上の問題を解決したり、心理的な不安を軽減するために、医師と看護師、多職種が支援するもので、指標の意味は指導イとロと同じです。がん患者指導管理料イの算定要件には、緩和ケア研修を修了した医師と専任の看護師（がん看護専門看護師、がん分野の認定看護師）がそれぞれ1名以上配置するとあります。当院では、患者家族支援センターに専門・認定看護師を複数名配置するとともに、病棟・外来部門に所属する認定者が、医師や看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー等と協働して患者と家族の支援に当たっています。

定義

- ① 1年間のがん患者指導管理料イ算定件数（入院・外来の合計）
- ② 1年間のがん患者指導管理料ロ算定件数（入院・外来の合計）
- ③ 専門・認定看護師等によるがん患者指導件数（がん患者指導管理料範囲外※） ※指導イ、ロを算定した後に、算定要件にあわず算定なしで支援した件数、および支援開始時にイ、ロの算定要件があわず算定なしで支援した件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	（単位：件）
がん患者指導管理料イ算定件数	130	89	453	746	712	
がん患者指導管理料ロ算定件数	627	435	812	1,080	1,364	
算定範囲外のがん患者指導件数	1,085	990	1,230	1,416	785	
がん患者指導件数	1,842	1,514	2,495	3,242	2,861	



指標の説明

がん患者指導管理料イ件数は横ばいでしたが、がん患者指導管理料ロ件数が300件近く増加しました。これは、不安の強い患者に対して専門外来の看護師や医師からの支援依頼が増加したことが要因です。これからも、支援が必要性の高い患者さん、介入できるよう努めていきます。

41

糖尿病・慢性腎臓病患者への栄養管理実施率

日病QI

指標の意義

糖尿病や慢性腎臓病を既往を背景に持つ患者の、透析への移行を予防し患者のQOL維持や医療費抑制に貢献するものです。

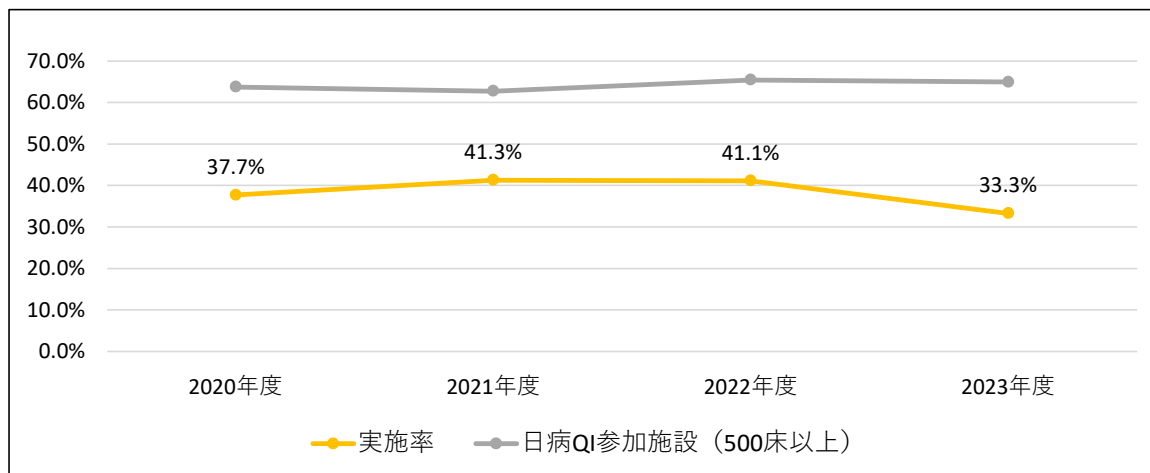
定義

分子 分母のうち、特別食加算の算定回数×100

分母 18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病患者で、それらへの治療が主目的ではない入院患者の食事回数

当院の実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
特別食加算算定回数	13,574	16,037	20,172	16,861	(件)
当該入院患者の食事回数	36,052	38,838	49,121	50,660	
実施率	37.7%	41.3%	41.1%	33.3%	(%)
日病QI参加施設（500床以上）	63.7%	62.7%	65.4%	64.9%	



指標の説明

・医師及び看護師への周知とともに、病棟担当管理栄養士より適切な栄養量について積極的に提案を行い、各患者の既往症についても栄養管理に努めていきます。

42

せん妄ハイリスク患者ケア実施率

自院

指標の意義

入院患者におけるせん妄のリスク要因の確認を行い、せん妄ハイリスク患者に対する対策を立案、実施しているかを見る指標です。

定義

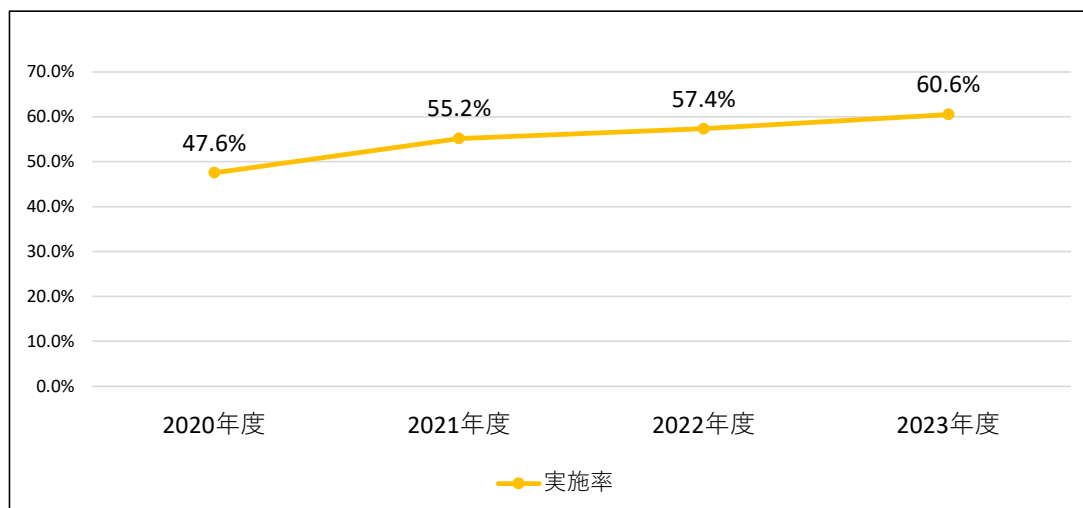
分子 セン妄ハイリスク患者ケア加算取得数×100

分母 セン妄スクリーニング件数

当院の実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
せん妄ハイリスク患者ケア加算	3,650	8,572	8,914	9,295	(件)
せん妄スクリーニング数	7,671	15,536	15,542	15,350	
実施率	47.6%	55.2%	57.4%	60.6%	(%)

※2020年度は10月～3月（6か月）のデータです



指標の説明

入院により、環境の変化や治療の影響で、一時的なせん妄状態になることがあります。せん妄状態は術後の安静が保てなかったり、転倒転落などのリスクが高まることから、入院時にせん妄リスクに関するスクリーニングを入院患者さん全員に行い、早期からせん妄リスクケアを実施することが重要です。当院では、手術を目的に入院する患者さんや70歳以上の患者さんを対象に、患者さんの状況にあった看護計画を実行しており、その結果、実施率が年々増加してきています。

43

周術期等口腔機能管理実施件数

自院

指標の意義

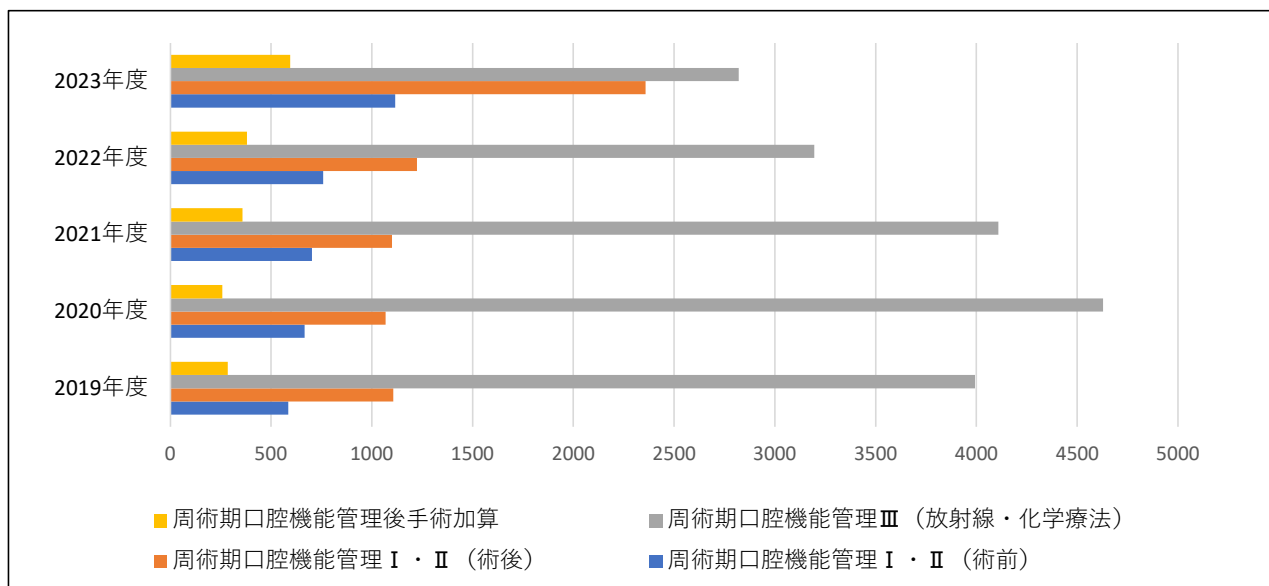
がん治療中の合併症（術後肺炎等）や口腔有害事象（口内炎等）を予防・緩和することで、円滑に治療をすすめること、患者さんの療養生活の質を支えることを目的に歯科医師・歯科衛生士による口腔管理が行われています。

定義

- ①周術期口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ（術前） ②周術期口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ（術後）
③周術期口腔機能管理Ⅲ ④周術期口腔機能管理後手術加算

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	(単位: 件)
周術期口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ（術前）	585	667	703	759	1,116	
周術期口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ（術後）	1,107	1,069	1,100	1,224	2,359	
周術期口腔機能管理Ⅲ（放射線・化学療法）	3,993	4,629	4,109	3,195	2,820	
周術期口腔機能管理後手術加算	286	258	358	380	595	
周術期口腔機能管理計画策定料	1,136	1,066	1,104	1,115	1,262	
手術件数	4,786	4,595	4,690	4,458	4,492	



指標の説明

周術期口腔機能管理加算（総数）は減少傾向ですが、手術前、手術後から退院時に、口腔機能状態のスクリーニングを行い、歯科衛生士による口腔ケアや患者指導の実施件数が増加しています。今後は、手術以外の放射線・化学療法治療対象者の口腔機能管理を強化を図るとともに、地域の歯科診療所と協力して口腔ケアを進めていきます。

45

NST（栄養サポートチーム）介入件数（入院・外来）

自院

指標の意義

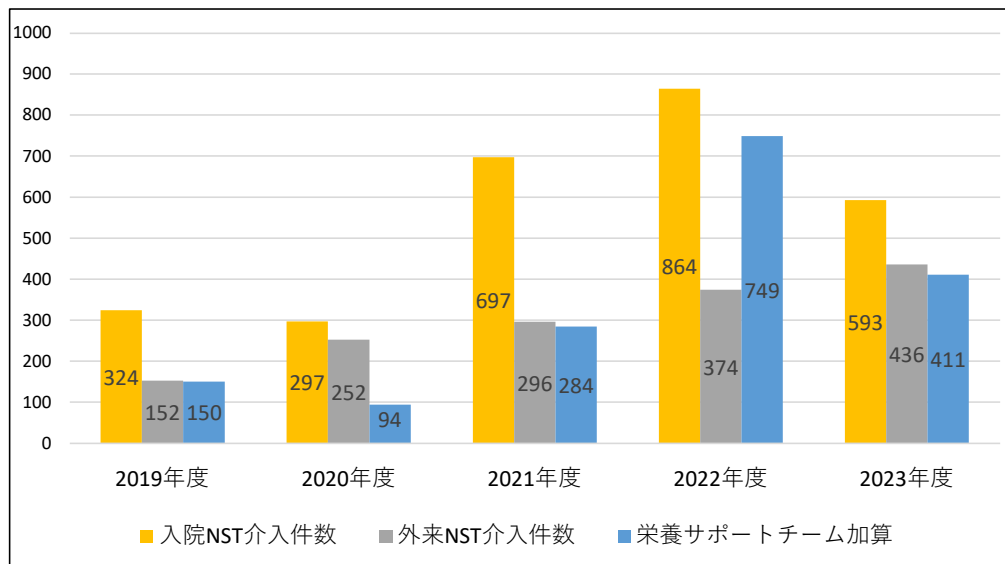
NST（栄養サポートチーム）は、多職種による患者への適切な栄養管理を実施し支援するチームです。NSTは、患者さんの栄養状態をスクリーニングし、患者さんの栄養状態を把握し適切な栄養管理を行います。低栄養や治療前の栄養改善の支援状況を見る指標です。

定義

1年間のNST介入件数（外来・入院）

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
NST介入件数（外来・入院）	476	549	993	1,238	1,029	（件）
外来NST介入件数	152	252	296	374	436	（件）
入院NST介入件数	324	297	697	864	593	（件）
栄養サポートチーム加算	150	94	284	749	411	（件）



指標の説明

2022年度から緊急入院患者を新たな対象とし介入したため2022年度は件数が急増しましたが、緊急入院介入患者を精査した結果、介入対象外の患者が含まれていました。2023年度はNSTが対象患者にピンポイントで介入できるよう抽出したことで入院NST介入件数が減少しました。

46

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)支援件数

自院

指標の意義

CLSは、1950年代頃から主に北米で発展してきた、病院など医療環境下にあるこどもや家族(きょうだいを含む)を支援する専門職です。こどもの生活の中心である遊びを提供することで、こどもの不安を和らげ、こども本来の発達を支援すること、どんな環境でも、こどもや家族がその家族らしくいられることを目指し活動しています。こどもが受け身になりがちな医療環境の中でも、こども自身が主体的な存在であり続け、その子なりに治療や入院生活などに向き合えるようサポートしています。

乳幼児からAYA世代*の患者さん、お子さんを抱えて闘病されている患者さんを支援しています。

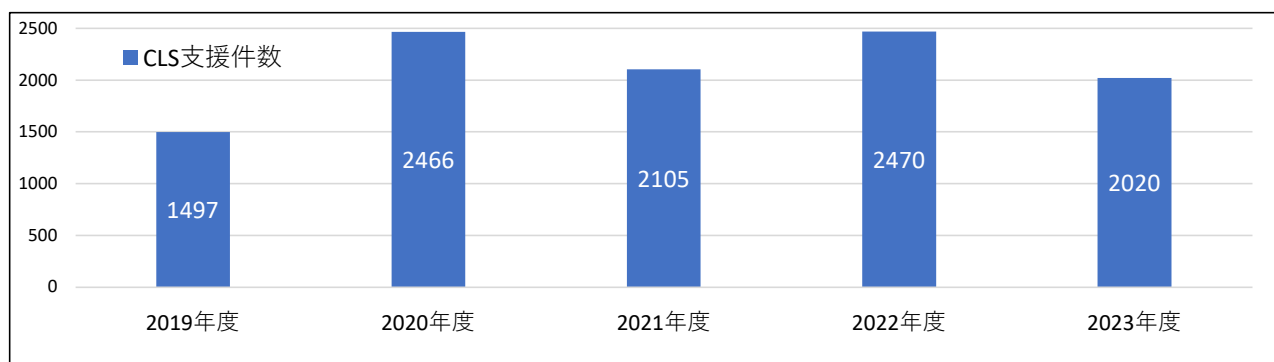
定義

1年間のCLS支援件数

- <支援内容> ・治療的遊びの提供 ・治療、処置、検査、手術などの心の準備
 ・処置、検査、手術麻酔導入時のサポート
 ・きょうだい支援 ・復園・復学支援 ・グリーフケア など

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
CLS支援件数	1,497	2,466	2,105	2,470	2,020	(延べ件数)



指標の説明

社会全体で見ても少子化傾向であり、その中で病気に罹患し当院に入院する人数が減少しています。そのため、CLSの介入件数が減少していると考えられます。今までは外来を訪問しサポートする機会が限られていましたが、2023年度からは、CLSからも適宜外来診察に合わせて患者さんやご家族を訪問する事で、退院後もサポートを継続し、支援の質向上に取り組んでいます。

指標の意義

AYA・こどもサポートチームは、小児科医・看護師・チャイルドライフスペシャリスト・ソーシャルワーカー・心理士など多職種で、AYA世代（15～39歳）及びこどもを抱えて闘病する患者さんとそのご家族が、それぞれの状況によりよく順応して、がんを抱えて生きることを支援しています。

リンク：AYA世代の診療（<https://www.scchr.jp/ideal-care/aya.html>）

AYA・こどもサポートチーム（https://www.scchr.jp/about-us/torikumi/multidisciplinary/aya_child-supportt.html）

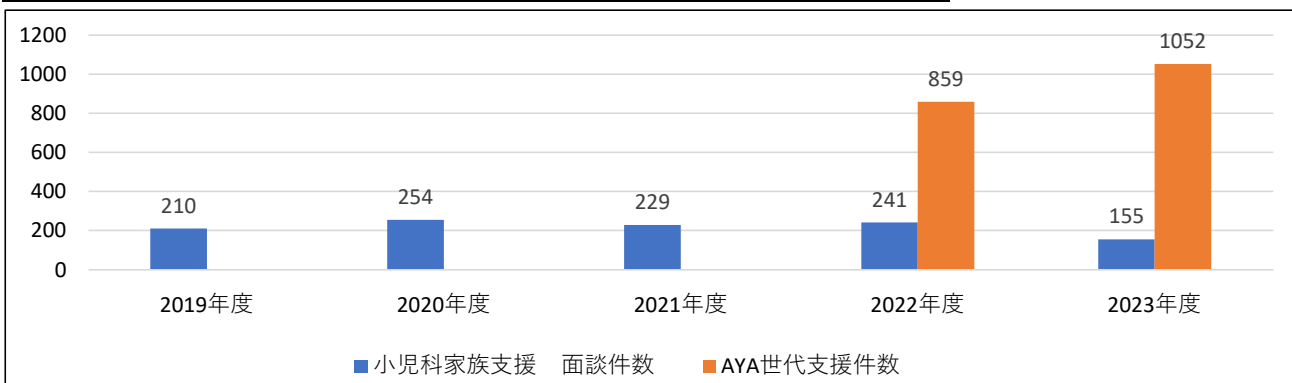
定義

小児科家族支援 面談件数（未成年のこどもをもつ患者さんへの支援）

AYA世代支援人数（小児科家族支援を除く）

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
小児科家族支援 面談件数	210	254	229	241	155	（延べ件数）
AYA世代支援件数				859	1,052	延べ件数・（実人数）



指標の説明

前年度より小児科家族支援の面談の件数が減少しています。これは、令和5年度には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、こどもの面会（小学生以下）の際のチームによるサポートが減少した事も影響していると考えます。一方で、チームのリンクナースだけでなく、各病棟や主担当医の協力を得られている事は病院全体でのサポートの底上げに繋がっていると思われます。

AYA支援強化に向けた一つのデータとして2022年度（8月～3月）より、AYA世代への支援人数を計上しており、2023年度は1年間での件数のため比較はできません。引き続き、多職種で全人的ケアやサポートが提供できるよう協働し、患者さんがその人らしく生活できるように一緒に考えていきます。